

表13 休暇開始週数および休暇終了週数

		休暇開始週数	休暇終了週数
度数	有効	197	168
	欠損値	1067	1096
平均値		11.56	15.67
中央値		8.00	13.00
最頻値		6	9
標準偏差		7.331	7.991

表14 休暇の理由

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
体調が思わしくなかったから	Q4_1	155	50.0	61.3
医師や助産師・看護師などに指示されたから	Q4_2	98	31.6	38.7
妊娠した人は働きにくい職場だから	Q4_3	16	5.2	6.3
その他	Q4_4	41	13.2	16.2
Total responses		310	100.0	122.5

1,011 missing cases; 253 valid cases

表15 勤務先の措置

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	申し出た措置はすべて受けることができた	431	34.1	40.3	40.3
	申し出たが、認めてもらえない措置があった	53	4.2	5.0	45.3
	申し出ても認めてもらえないと思ったので申し出なかった	104	8.2	9.7	55.0
	必要がなかったので受けなかった	371	29.4	34.7	89.7
	知らなかったので受けなかった	110	8.7	10.3	100.0
	合計	1069	84.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	195	15.4		
合計		1264	100.0		

表16 退職の理由

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
体調が思わしくなかったから	Q6_1	163	26.0	38.1
医師や助産師・看護師に勧められたから	Q6_2	19	3.0	4.4
家族に退職を勧められたから	Q6_3	67	10.7	15.7
妊娠したら退職したいと思っていたから	Q6_4	155	24.7	36.2
勤務先（上司等）から退職を求められたから	Q6_5	27	4.3	6.3
妊娠した人は勤め続けづらい職場だったから	Q6_6	130	20.7	30.4
その他	Q6_7	66	10.5	15.4
Total responses		627	100.0	146.5

836 missing cases; 428 valid cases

母性健康管理指導事項連絡カードに関するアンケート



平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金子ども総合研究
「健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」班
主任研究者 山縣然太朗

- A. あなたの年齢 () 歳
B. 今回の妊娠について 1. はじめての妊娠 2. (第) 子目の妊娠
C. 現在の妊娠週数 () 週

* 以後、○の数の指定がない質問は、いずれか 1 つに○をつけてください。

- 問 1. 母性健康管理指導事項カードを知っていますか。 1. はい 2. いいえ (⇒問 2 へ)
1_1. カードを使用しましたか。 1. はい 2. いいえ

- 問 2. 妊娠および産前産後の休業などについて、困ったことがあった場合、相談する窓口は都道府県労働局雇用均等室や労働基準監督署であることを知っていますか。 1. はい 2. いいえ

- 問 3. あなたは、現在、働いていますか (自営業、内職やパートの方も含まれます)。
1. 現在働いている・・・現在の仕事に就いてどのくらいですか (勤続) 年) 月)
2. 働いているが、休暇をとっている
3. 以前働いていたが妊娠を機に辞めた・・・いつ仕事を辞めましたか (妊娠) 週)
4. 妊娠する前から働いていない

⇒「4」と答えた方は、これで終了です。ご協力ありがとうございました。

- 問 4. 妊娠中、産前産後の休業以外に妊娠を理由とした連続 5 日以上 of 休暇をとりましたか。
1. はい・・・ (妊娠) 週～) 週) 2. いいえ (⇒設問 5 へ)

4_1. 休暇をとった理由ではまるものすべてに○をつけてください。

1. 体調が思わしくなかったから 2. 医師や助産師・看護師に指示されたから
3. 妊娠した人は働きにくい雰囲気職場だから 4. その他 ()

- 問 5. 勤務先で次の○のような措置をひとつ以上受けたことがありますか。該当するもの 1 つをお選び下さい。
○妊娠中又は産後の健康診査等のための通院休暇 ○妊娠中の時差出勤・勤務時間の短縮等通勤緩和
○妊娠中の休憩 (休憩時間の延長、回数の増加などの勤務先からの配慮)
○妊娠中の軽易業務転換 (立ち仕事から座り仕事に配転などの作業の制限等)
1. 申し出た措置はすべて受けることができた 2. 申し出たが、認められなかった措置があった
3. 申し出ても認められないと思ったので申し出なかった 4. 必要なかったので受けなかった
5. 知らなかったので受けなかった

問 6. 問 3 で「3」と回答した方にお尋ねします。退職の理由にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 体調が思わしくなかったから 2. 医師や助産師・看護師に勧められたから
3. 家族に退職を勧められたから 4. 妊娠したら退職したいと思っていたから
5. 勤務先 (上司等) から退職を求められたから 6. 妊娠した人は勤め続けづらい職場だったから
7. その他 ()

問 7. 働きながら妊娠・出産することについて考えていることを自由にご記入ください。(裏面もお使い下さい)

☆本調査に関する問い合わせ先：福岡県立大学看護学部 松浦賢長 (分担研究者) 0947-42-2118

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました

健やか親子21中間評価のための母性健康管理指導事項連絡カード認識率調査 ～働きながら妊娠・出産することに対する自由記載分析～

渡辺 多恵子 茨城県常総市保健推進課
鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部
山縣 然太朗 山梨大学大学院医学工学総合研究部

本研究班では、全国75市区町村の母親学級に参加している妊婦を対象に、就労状況、母性健康管理指導事項連絡カードの周知および使用状況に関する調査を実施した（別稿）。

本研究では、「働きながら妊娠・出産すること」の現状を把握するための一手段として、調査票（別稿添付資料1）の自由記載部分に注目した。そして、回答内容の第一段階分析を行った。その結果、「職場の理解が得られない」、「職場の理解が必要」、「職場の理解が得られずつらい思いをした」などの回答が多く見られ、健やか親子21推進のためには、「職域への対策」が課題となっていることが確認できた。

I. 研究の目的

本研究班では、全国75市区町村の母親学級に参加している妊婦を対象に、就労状況、母性健康管理指導事項連絡カードの周知および使用状況に関する調査を実施した（別稿）。

本研究では、「働きながら妊娠・出産すること」の現状を把握するための一手段として、調査票（別稿添付資料1）の自由記載部分に注目した。回答内容の第一段階分析を行ったので報告する。

II. 研究の方法

1. 対象

協力が得られた全国75市区町村の母親学級に参加している妊婦。協力が得られた全国75市区町村は、北海道、東京都、埼玉県、茨城県、千葉県、山梨県、愛知県、奈良県、大阪府、滋賀県、愛媛県、福岡県、鹿児島県の自治体であった。

2. 方法

本研究班より市区町村へ調査票を郵送した。母親学級のなかで、担当職員から対象妊婦へ配布し、自記式により回答を得た。

本研究では、調査票の自由記載部分「働きながら妊娠・出産することについて考えていることを自由にご記入ください」への回答内容の第一段階分析を行った。

III. 結果及び考察

1. 回収状況

調査協力の承諾が得られた全国75市区町村へ2577名分の調査票を郵送にて配布し、72市区町村から1917名分の調査票を回収した。自由記載部分においては、回収した調査票1917名分中、526名から618の回答を得た。

2. 回答の分析

得られた回答を分析した結果、大カテゴリー2、中カテゴリー5、小カテゴリー25に対する613の回答と、少数意見5を確認した（図1参照）。

(1) 大カテゴリーへの分類

大カテゴリーへの分類は、回答者の回答の視点に注目して行い、以下のように分類した。

- i. 働きながら妊娠・出産することに対する意見
- ii. 地域・社会・職場・家族への意見
- iii. 少数意見

回答数は、i. 144(23.3%)、ii. 469(75.9%)、iii. 5(0.8%)であった。

妊婦の就労に対する直接的な意見より、妊婦の就労に対するの関連因子に視点をあてた意見が多かった。

(2) 中カテゴリーへの分類

中カテゴリー項目、回答数及び中カテゴリー内での回答割合は以下の通りだった。

- i 働きながら妊娠・出産することに対する意見

144(100%)

A. 第三者的意見117(81.2%)

B. 当事者の意見27(18.8%)

妊婦の就労に対する直接的な意見の中では、第三者的な意見が多かった。

ii 地域・社会・職場・家族への意見469(100%)

A. 理解・配慮・協力に対する意見271(57.8%)

B. 制度に対する意見140(29.8%)

C. 心理的負担に対する意見58(12.4%)

妊婦の就労に対する関連因子に視点をあてた意見の中では、妊婦の就労に対する理解・配慮・協力に対する意見が多かった。

(3) 小カテゴリーへの分類

小カテゴリー項目、回答数及び小カテゴリー内での回答割合は以下の通りだった。

i. 働きながら妊娠・出産することに対する意見

A. 第三者的意見117(100%)

a. 肯定的(賛成) 67(57.3%)

b. 否定的(反対) 6(5.1%)

c. 個人の自由 6(5.1%)

d. 困難・無理 38(32.5%)

B. 当事者の意見26(100%)

a. 大変だけどがんばりたい 3(11.1%)

b. 働きたくないが働いている 2(11.1%)

c. 働けるなら働きたい 16(59.3%)

d. 仕事をやめる事が希望だった 5(18.5%)

妊婦の就労に対して肯定的(賛成)な意見と、働けるなら働きたいという就労を希望する意見が多かった。

ii. 地域・社会・職場・家族への意見475

A. 理解・配慮に対する意見265(100%)

a. 職場の理解・配慮・協力があつた29(10.7%)

b. 職場の理解・配慮・協力が得られずつらい思いをした 36(13.3%)

c. 職場の理解・配慮・協力が得られない 115(42.4%)

d. 職場の理解・配慮・協力が必要65(24.0%)

e. 家族の理解・配慮・協力が必要 8(3.0%)

f. 地域の理解・配慮・協力が必要 2(0.7%)

g. 通勤電車がづらい 16(5.9%)

B. 制度に対する意見140(100%)

a. 休暇の充実 38(27.1%)

a1 育児休暇の充実 (5)

a2 産前・産後休暇の充実 (18)

a3 妊娠初期(つわりの時期)休暇の要望 (18)

b. 保育園・育児環境等の充実 52(37.1%)

c. 行政サービス(母親学級・健診など) 9(6.4%)

d. 制度の充実 36(25.7%)

e. 制度を知らない・利用の仕方がわからない 5(3.6%)

C. 心理的負担に対する意見 58(100%)

a. 職場の負担・迷惑になっていると感じてる 11(19.0%)

b. 自己実現との葛藤 10(17.2%)

c. 就労の継続に対する不安 28(48.3%)

d. 働いていることがづらい 4(6.9%)

e. 胎児への影響 5(8.6%)

就労妊婦への理解・配慮・協力に対する意見の中では、「職場の理解が得られない」、「職場の理解が必要」、「職場の理解が得られずつらい思いをした」という回答が多く、合計すると216(79.7%)が、「職場への理解・配慮・協力」を求める回答であった。一方、「職場の理解・配慮・協力があつた」は、29(10.7%)の回答数であり、理解・配慮・協力を求める回答と比較して、少ないことが確認できた。

回答内容を一つずつ見ていくと、「軽易業務への配置転換や、育児休暇などの制度があつても、実際にはその通りに対応してもらえない。」「男女雇用機会均等法が、妊娠出産を理由にした解雇を禁止しても、実際にはその通りではない」ことを訴える回答も見られた。健やか親子21推進のためには、職域への対策が必要である。

IV. まとめ

本研究では、「働きながら妊娠・出産すること」の現状を把握するための一手段として。「働きながら妊娠・出産すること」についての自由記載部分の分析を行った。第一段階分析では、「職域への対策」が課題となっていることが確認できた。

今後は、自由記載の回答を、調査票の他の項目(就労状況、母性健康管理指導事項連絡カードの周知と使用の状況、都道府県労働局雇用均等室や労働基準監督署の周知状況、妊娠中の休暇取得状況と理由、妊娠中の措置状況、妊娠中の退職者の

理由など)とクロスして分析し、必要な対策を検討していく必要があると思われた。

V. 自由記載回答内容

i. 働きながら妊娠・出産することに対する意見

A. 第三者的意見

a. 肯定的(賛成)

- ・経済的に安定しているので良いと思う。
- ・無理のない状況で仕事ができる事は、とてもイキイキできて適度な運動や気分転換にもなるので、充実した妊娠生活を送る事ができ、出産についての余計な不安もなくなってくる。
- ・負担が大きいと思うが、働き続けたほうが良いと思う。
- ・各家庭それぞれの金銭的事情、女性の社会進出等、昔と今では女性の仕事に対する意識に違いがあるので、働きながら妊娠出産することに賛成である。
- ・適度な運動の為には良いと思う。
- ・体重が増えないからいい。お金の麵でも働いているほうが余裕ができ、生活に張りがあつて良い。
- ・体調に問題が無ければ、仕事を続けることは良いと思う。
- ・仕事が逆に気晴らしになることもあると思う。
- ・無理のない程度なら時間を有効に使うのはよいと思う。
- ・出産後の仕事が以前のようにできるかどうか。
- ・妊娠していても働くことによって気分も変えられて良いと思う。
- ・働いていた方が体調が良い。
- ・気分転換になるので、無理のない程度にギリギリまでしたい。
- ・妊娠中、家にこもりがちになるので、運動のため、または胎教のため、人と接する事はいい事だと思う。
- ・無理のない範囲でなら(通勤と含め)、人それぞれでよいと思う。
- ・体の調子が良ければ働いていた方が良いと思う
- ・仕事と家事を両立できるのであれば良いと思う。
- ・働きながらの妊娠出産は良いと思う。
- ・自分の体調を考えて、医師から許可も出ているなら、無理をしないで続ける分には良いと思う。また、周りの人も気を遣ってあげる事が大切だと思う。

・家事する時間と体力を作り出すのがだが、その分、工夫も出来たし、夫に協力してもらえたので、とても良いことだと思う。ただ、働きながらの子育ては私には無理なので、仕事はしないつもりでいる。

- ・働きながら健やかな妊婦さんが増えるといいと思う。
- ・妊娠中の余計なことを考えなくていいため働いていた方が楽だと思う。
- ・デスクワークであれば安定期に入ったら特に問題もなく、逆に太らなかつたり気分転換になっていいのかなとも思います。
- ・妊婦でも体調が悪くなければ仕事をするのも良いと思います。
- ・妊娠中も働くことで気分転換になり良かった。周囲の人たちは励ましてくれる人ばかりだったのでとても支えになった。体調がづらい日もあったが、得るものの方が多かった
- ・働きながらでも仕事ができる職場環境ならどんどん休暇などを利用して働くべきだと思う。
- ・大変なことですが、それができると言うことはうらやましく思うし、立派なことだと思います。
- ・ある程度体を動かしていた方が良いと思うので働く事は良いと思う。
- ・周りの理解と協力が必要だが良いと思う。
- ・大いに良いことと思う。
- ・体調に問題がなければ、負担のかからない程度の仕事はしてもよいと思う。
- ・8ヶ月までは無理せず働けるのであれば働いていた方が気持ちが楽でした。
- ・家にいるより外に出たり働いていた方が気が紛れ、楽なときもある。
- ・家にいても時間をもてあますと思うので、体調が良ければ働いたほうが良いと思う。
- ・体に合わせて働ける範囲のことであれば、自己管理の上でする分には問題ないと思う。
- ・家でじっとしているよりは働いていた方が体調も良い。出産してもぜひ働きたいと思っている。
- ・妊娠中に働くことが、かえって運動になったりして良いと思うところもありますが、出産後はいろいろと大変そうな感じがします。
- ・無理のない仕事なら気分転換になっていいと思います。
- ・つわりの時はいつも家にいて、ダラダラとした生活が続いたので、つわりがおさまったのを機に

働き始めました。家にいると外に出るのでは気分が違って、とても良いものだと思います。働いていると心が充実しているように思います。

・つわりがひどくなくて体調がいいなら続けてもいいと思う。

・働きがいのある職業なら出産後も働くのがいいと思う。できればそれが理想

・適度な運動をかねて心身にストレスを感じない範囲であれば働く方が望ましいと考えています。

・仕事内容にもよるが、仕事をするによって楽しく生活できるのなら続けていたほうが良いと思う。

・妊娠していても、働ける限り働けたら良いと思う。

・周囲の協力があれば特に問題はない。

・仕事がストレスを感じる場であるとともに、ストレス発散の場になっているので、職場の理解があれば、頑張って続けた方が良いと思う。

・家にいるより気が多くなり、つわりも軽く、メリハリのある生活ができています。体重も特に気をつけなくても働いているので健康です。

・良いと思う。

・出産するということは子を産み育てることなので、働き続ける（自分と子どもの生活費を稼ぎ続ける）ことは必要不可欠。

・したい仕事を持っていることは妊娠中も精神的な気分転換になるので良いと思う。また、産後いつか職場に戻れる保証があるのも心強い。

・自分の体調管理をちゃんとできるような職場であれば、働いていたほうがよいと思う。

・体調次第だが。働いていた方が生活リズムができてよいのではないかと。自分のキャリアを考えるひとにとっては時に続ける事は重要だし、続ける事が可能な環境を整備することはさらに重要。

・職業によってはたらきながらの妊娠出産は自分で決める事だと思います。今は男女平等働く時代だから、妊娠出産のため退職されるのがおかしいと思います。

・まわりあまり気にされるのも嫌なので、無理のない程度で働ければ一番いいと思います

・働きながらの妊娠・出産は良い事だと思いますし、少子化の時代に企業等が積極的にサポートしていく事も良いと思います。個人的には転職先入社前だったため、職柄環境の変化でそういった制度をうけられませんでした。多く所企業がそう

いった制度の導入をして欲しいと思います

・職場の環境次第では、続けていたほうが生活のリズムになっていいのではないかと思います。

・家に居ると一人なので、食べるか寝るか野生活になってしまうため、仕事をしていることは、気分転換にもなるので良い。

・有意義に過ごせることがとてもプラスだと思うので、仕事をしていて良かった

・安定期に入るまでは不安も多いが、仕事をしていたほうが体調管理をより意識でき充実できると思います

・いいことだと思うし、まだ社会的に妊婦さんが働きづらい環境だと思うので、働いていることは素晴らしいと思うし、凄いです。

・体調がよければ働いても平気だと思う。気分転換にもなるから

・大変だろうけど仕事をしているのが好きな人は働きながらは気分的にもとても良い事だと思います

・運動不足にならずに済むし、働く事で気分転換になるので、健康状態がよければ働いた方が良いと思う

・体調によってだが、特に無理をしなければメリハリがあつて、仕事をしているほうが良いと思う

・本人が希望するのであれば、職場はそれを受け入れるのが当然だと思う

・体調がよければ働いている方が、気が紛れる

b. 否定的（反対）

・子どもが病気になるったりすると周囲にも迷惑がかかたりするので、子どもが小さいうちはあまり働くことは良い事ではないと思う。

・人生の中で大きなイベントで、本当に体を大切にしなければいけない時なので、よっぽどの理由がない限り、無理をして働く事にはどちらかと言えば反対。本当に働けない期間や、子どもと一緒にいるのが大切な期間は人生の中では短いはず。

・直前まで働くより赤ちゃんの事を考える時間が大切

・私が上司だったら、妊婦を雇いたくないから微妙。

・3歳までは自分で育てたいので、私自身は働きたくない。体調か精神面で本人が大丈夫ならよいと思うが、子どもを犠牲にしてまで働くのは良くないと思う

・妊娠中は働けるだけ働いても出産してからは3歳までは子育てに集中すべきだと思います。3つ子の魂100までというので

c. 個人の自由

- ・人それぞれの考えで良いと思う。
- ・自分で望むならば、ぜひ、働きながら妊娠出産をしてよいと思います。ただし、バランスのとれた生活が出来ないと予想されたので、私は退職を選びました。
- ・家族や個人の考え方や事情によってそれぞれだと思う。
- ・個人の自由であるが、できるなら妊婦は働くべきではないと思う。周りも気を使うし、何より母体が大事であるから
- ・個人の自由だと思う。常に愛情をもって子どもに接するようにすると良いと思う。寂しい思いをさせてしまうのなら働かない方が良いと思う
- ・個人の自由だと思う。私一人としては、産後すぐに子どもを保育所とうに預けてまで仕事を優先させるつもりはない

d. 困難・無理

- ・働きながら出産することはいいけれど、周囲の理解や環境がきちんとしていないと、難しいと思う。
- ・予想以上に大変。
- ・正社員では難しい。
- ・会社によっては働きづらと思った。男性が多い会社だと特にそう思う。
- ・現実問題として、難しいように思う。
- ・大変な事だと思う。
- ・いろんな意味で大変だと思う。
- ・仕事にもよるが、通勤含めて大変そう。
- ・体調が悪い時は大変。つわりなどは働いているほうが軽い気がする。
- ・両立するには大変そうだと思う。
- ・周囲の理解がないと難しいと思います。
- ・体調が毎日良いとは限らないので仕事を続けるのは難しいと思う。
- ・年齢が高くなるにつれて、いろいろ体調にもトラブルがでてきて、働き続けることが大変だと思った。
- ・フルタイムで働くことは体力的にも大変だと思う。私は8時30分～15時のパートタイムということと、周りの方がよくしてくれ、理解してくれ

(経験者多数)ているので、とて働きやすい環境なので、働くことに感謝しています。また、家にこもってしまうとストレスがたまってしまいそうなので、たくさんの人の中で過ごせて、私にとってはプラスです。

- ・働きながら出産することは無理。
- ・働きながら妊娠出産するのは非常に難しいです。
- ・仕事に就いているときに妊娠に気づきましたが、出来ることなら続けて行きたかったのですが、体がついて行かなかったり、周りの方に迷惑をかけたたりとお互い気を遣い、やはり、仕事をしながらというのは難しいのではないかと思います。
- ・妊娠中はつわりも辛いし、産後は赤ちゃんのそばにいてあげたいだろうから大変だと思う。
- ・まだまだ大変だと思います。
- ・官公庁大企業か、理解ある経営者の中小企業でないといけないと思う。
- ・妊娠出産は自由にできるが、育児はやはり難しいと思う。(特に正社員では)
- ・思った以上に大変
- ・私は現在、事務職が多いので、体にも特に負担なく続けてこられていますが、そうでない外勤や立ち仕事などの場合は、やはり、会社の人の理解や、また、制度も充実していないと配置転換など難しいと思います。周りからの会社への補助がもっと必要だと思います。
- ・現実には厳しい。
- ・周りの協力があればできるが、大変だ思う。
- ・大変
- ・社会に出たいと思うが、現実には厳しいと思う。
- ・難しいと思う。
- ・凄く大変な事だと思いました。パートだったので自由に休めましたが、社員で続けるのは難しいと思いました。
- ・このままいけば、出産は低下をたどると思う。保証をつけることはもちろんのこと、日本人の意識が変わらない限り難しいと思う。
- ・仕事はギリギリまで続ける予定だったが、実際難しい事を実感した。体調さえ問題なければ、働きながら妊娠出産したいと思っている。
- ・給与は欲しいが、時間拘束で働き続けるのが難しい。
- ・難しいことだと思います
- ・現実問題としてとても難しい。在宅でできる仕事などがもっとあるといいのに・・・と思います

- ・体質・体調が変わるので、思っている以上に大変です
- ・大変だと思う
- ・なかなかまだ難しい
- ・働きながらというのは、とても大変だと思います

B. 当事者の意見

a. 大変だけどがんばりたい

- ・働けるまで働く
- ・自営なので出来る限り手伝いたい。
- ・大変だと思うが、がんばりたい。

b. 働きたくないが働いている

- ・金銭面で難しいので、働かなくてはいけない。
- ・自営業のため仕方ない
- ・自分には無理。お金に問題が無ければ辞める

c. 働けるなら働きたい

- ・経済的な問題と体調管理のバランスで、主人とよく話し合って辞める時期を決めた。
- ・働けるならはたらきたい。
- ・出来れば無事出産が済み、子どもが2才ぐらいになれば仕事を探し始めたいと思っています。
- ・子育てを第一に考えて、余裕があれば働きたい。
- ・出産を機に一旦は退職しますが、出産後1~2年したら、また仕事をしたいと思う。保育園等で子どもの友達づくりも出来ると思うので。
- ・出来れば働きたいが、子どもの成長もみたいので、自分の体調もかんがえながら、産まれてきてから考えたいと思います。
- ・働く事によって、生活も『規則的に送れて、体を動かすことができるため、妊娠していてもできれば働きたいと思うが、仕事の内容にもよると思う。出産後は子どもがある程度大きくなるまでは働かずに子育てしたいと思う
- ・時間を決めて、無理なく働きたい
- ・働きながらの妊娠出産は大変だが、出来る事ならもっと長く働きたかった。
- ・体調が大きく変化するので、今まで通りには働けない。仕方ない。
- ・働けるなら働きたい。
- ・経済的には働きたいが、その子のことを考えると、かわいそうになり働けない。
- ・私は初期に問題があったので、仕方がありません

んでしたが、出来れば働きたかったです。

- ・派遣社員だったので、産休・育休のメリットがないような話を聞かされ、出産6ヶ月前まで働く事だけ考えて退職しました
- ・つわりなどの体調不良がなければ働きたかった。家にずっと居るとストレスが溜まる
- ・子どもと接する仕事だったので、私の場合は自分に余裕がなかったり、具合が悪かったため、子どもに優しく接する事が難しくなってきたので辞めました。動き回る仕事の場合、仕事を続けるのは大変だと思います

d. 仕事をやめる事が希望だった

- ・出産を機に退職の予定でいます。生き方がかわると思うので、自らのぞんでの退職です。体調を崩すことがなかったので、6ヶ月近い現在でも職場に報告はしていません。職場がどう理解してくれるかは不明ですが、今のところ何の不安もなく働いています。
- ・元々派遣社員だったし、妊娠したら早めに辞めるつもりでいたので、特に深く色々考えたことはありませんでした。
- ・妊娠したら仕事はしないときめていたので、特に考えはありません
- ・子どもが小さいうちは、一緒に過ごしたかったので、退職しました
- ・体調を考慮して働ける環境があれば是非働きたい。

ii. 地域・社会・職場・家族への意見

A. 理解・配慮に対する意見

a. 職場の理解・配慮・協力があつた

- ・周りに出産子育て経験しながら働いている人が多いので、多くのアドバイスをもらいながら働くことができています。
- ・自営業なので両親とも一緒に働いているため、恵まれていると思う。
- ・私の環境は医療の仕事だったので、理解者が多く、助けられた。
- ・現在妊娠しながら働いていますが、何とか周りが配慮してくれ、助かっている。先輩ママも沢山働いているので、いろいろ質問などが出来、よい環境にいる。職場によっては、働き続けるというのもメリットがあると思う。
- ・今の職場は、個人病院の事務で働きやすく、シ

フトも減らしてもらえるので良かった。つわりの2週間は、車の運転がつかなくて休んだ。

・現在働いている職場では3年間お休みがとれるので助かっている。

・職場も、気を使ってくれるとありがたい。

・まわりの手助けがあったので、乗り切れた。つわりの時は、かなりきつかった。職場のゆとりがなくなってきているので、仕事の量も減らせず、残業も多い状況。仕事は続けたいので、育児休業あけがどうなるのか心配。

・私の場合、週に2日(4hパート)のみで、後少して辞める予定なので、無理しない程度にここまで続けさせてもらい、良かったと思う。

・現在の会社は特に問題はない。

・妊娠していても勤務先が配慮してくれたので、異常がない限り働きたい。

・夫、家族の協力が必要。

・会社の環境(制度・選お会い妊婦の存在)が恵まれていて、今の状況に感謝しています。

・会社の人たちの理解と協力はとても助かりました。それ無しでは働くことは不可能。

・職場での妊娠している女性に対する対応が早く、会社の制服も妊婦用のものを迅速に貸し出してもらい、仕事も今までどおりにやりやすかったので、妊娠している人には他の人と同じ環境づくりを作って欲しい。

・体調も良かったので働きながらの妊娠出産も負担に感じることは無かった。周囲の環境にも恵まれた事も大きいと思うので、会社全体、社会全体として理解がふかまることが大切だと感じます。

・勤務先のスタッフが理解ある人たちなので、働きやすいです。

・働いているところはかなり融通がきくので良かったが、休みたい時休んだりできなかつたらここまで仕事を続けるのは無理だったと思う。

・仕事に復帰することが出来るので、とくに心配はないです。

・当初は心配しておりますが、会社での産休育休も含めての対応が充実しているので安心していきます。

・実家が自営業のため、そこで働いているので、時間的にも恵まれていると思う。産前産後ともなるべく休まずに仕事をしたいと思っています

・大変ですが、職場の先輩に相談できたり、働いているせいか、つわりも軽かったので良かった。

仕事量も少しずつ減らしてもらえた

・職場の妊娠に関して理解があったので、働きやすかったが、8ヶ月後半より体力が落ちた気がして疲れやすく集中力も無くなってきたので、この頃には妊婦も退職すべきだと思った。9か月前半まで勤務予定だが、もっと自分にゆとりある生活を送るべきだったと少し公開している。しかし家にいるより気晴らしになった

・国家公務員で在職している省庁も女性の比率が低いので、私の場合周囲が妊婦に対する配慮をする人的余裕があり、現在のところ問題なくやっている。しかしここまで恵まれているのは珍しい事だと思う。係の半分がもし女性で一時期に妊娠したら、残る職員が大変という話も聞くので、良くありがちな『庶務に女性職員を集中的に配置する』などというのはやめてほしいと思う。

・職場の環境は甘えられるところだったのでよかった

・会社側の理解協力がとてもあり、とても良い環境で仕事が出来ているので、感謝しています

・大変よい環境に居るので、会社の方々がフォローしてくれているので助かっていますが、迷惑をかけているだろうと思っています

・かなり通勤や職場の環境に恵まれていました。妊娠中は、体力的にも精神的にも不安になることが多いので、周りの人々の協力が無ければ仕事を続けるのも復帰するのも難しいと思いました。

・妊娠してお腹が大きくなるにつれ、職場の方(特に女性や結婚をしている男性)が、色々手伝ってくれて助かった。

b. 職場の理解・配慮・協力が得られず、つらい思いをした

・会社側が育児について協力的な制度を打ち出したとしても、現実問題として職場の同僚や上司の理解が得られず、とても居辛いこともある。

・制度や支援の社会現象と、現実の理解不足とのギャップに、働きながらの妊娠出産はかなり心理的負担を強いられると思っている。

・妊娠、育児を理由に休んだりすると、なんとなく後ろめたい。理解のある人ばかりではないように思う。

・重い物を持つと良くないと思うが、なかなか言い出せないで、ずっと続けれることは難しいと思う。産休後は別の支社になる可能性もあるという

ことなので、もう少し妊娠出産について考えてもらいたいと思う。

・仕事の内容がハードだったため、療養休暇になってしまった

・体を休めることができていると、体調が悪くても、仕事を続けることができたかもしれないと思う。

・引継ぎできる人がいなくて、最後の頃は睡眠時間が3時間位しか取れなかった。残業して仕事をしていた。

・上司周囲の理解が得られず、大変辛かった。

・公務員であるにもかかわらず、体調不良であっても、『妊娠は病気ではない』『昔は産む直前まで畑仕事できたのだから甘えるな』など言われた。

・休みなどとれるような状況ではなくて辛かった。

・つわりがひどかったのも、会社で理解がないのがとても辛かった。妊娠して仕事をするのは大変だと思った。

・働きながら妊娠すると、初期はつわりで大変。休もうと思っても勤務中はなかなか休めないのが現実。

・アパレル販売員で女性が20人いたが、全員未婚でした。店長のみ男性で子どものいない（子どものきらいな人）だったので相談しづらかった。立ち仕事以外の仕事がなかったことを知っていたので言えなかった。

・残業も通常通りに指示され、つわりや眠気などに襲われながらこなすのはとても大変でした。電車も席をゆずられることもなく、社会の厳しさ（悲しさ？）を痛感しました。勤務先も遠いので続けることにより不安を感じています。

・病院では1週間休むように言われたのですが2日しか休めませんでした。忙しい時間でしたので申し出はしませんでした。

・男性中心の職場なので体調不良の具合がなかなか伝わらない。制度がイマイチ分かりづらい。前例が少なくどうしたらいいのか分からない。病気ではないが、人によって体調の差があるのでもう少し理解が欲しい。

・仕事に責任がかかっているから、そう簡単には休めず、現在も無理をしている部分があるかと思う。出産後は育休をとって、再度つとめたいと思っているが、どのような体制になるのか、考えるだけで不安になるときもある。協力してくれる両親、友達も、現在は、転勤したばかりでいない。

・職場が男性ばかりで理解もなく、本当につわり中は苦しい思いをしました。母性健康管理指導カードは会社へ提出したのですが、実際はなんにも効果はありませんでした。つわりで立ち上がれない程吐いてしまって、会社を休ませて下さいとお願いしても、出てくるように言われ、どうにか入社しても役にたたなかったとその日のお給料すら出ませんでした。結局は、お腹が大きいと見た目が悪いと言われ、今年末で仕事をやめなくてはいけなくなりました。くやしかったです。

・職場の人たちの妊婦に対する知識が全くなく、目の前でタバコを吸い、休憩もなく、残業が続いても当たり前のようにいる環境で仕事をしていきます！もっと理解してもらいたいです。

・職場の理解協力する気持ちがあれば、安心できると思います。私の場合、妊娠を報告した数日後に退職を勧められたので...。「考えてご主人と話しをしてきて。」とか言われて、産休があるから選んだ職場だったのに、なんなんだろうと思った。ストレス倍増！！

・やはり、妊婦になったら、会社は冷たかったです。

・上司に相談したが話しののってくれず、妊婦になんかきよよかったのか？とつらいことばかりでした。

・飲食店（ファーストフードでとても忙しい）でのアルバイトだったので、軽易業務に転換する、休憩時間延長、通勤緩和などはとてもじゃないが出来なかった。やはり、アルバイトでは無理なのが現状じゃないかと思います。シフト制だったので検診など必要な時は自分で休みをとった。男の人は妊娠出産について理解していないのが現状。上司も男性が多い。

・体調が悪い時は大変だった。周りの協力はとても大事だと思う。

・職場環境・人間関係によってだいぶ左右されると思った。通院・母親学級などの特別休暇は受けられても、それについて精神的に圧迫されることはありました。いじめとまではいきませんが、

・職業は看護師で夜勤のある仕事だが、助産師の資格をもつ上司にも関わらず『夜勤免除は当たり前だと思わないで』と吐き捨てられた。周囲に子育て中の人も多い職場環境だが、こういった嫌み・嫌がらせなどはよくあることだと聞いた。女性の職場なのに、他の一般企業はもっと大変だ

ろうなとしみじみ思う。

・とても大変だと感じた。夜勤があったのがとても辛かった。上司に無理を言ったが、妊娠は病気ではないと言われ、断られた。

・会社のお荷物と見られることが多く、出産育児に関する就業規則もなく、つわりでも休むことが出来なかった。子どもが出来たら辞めるのではと思われ、当然のように退職になった。

・以前の仕事は時間が不規則で見回りなどの仕事もあったので辞めました。つわりがひどい時に働いていたので辛かったです。

・学校関係は、妊娠したらかなり厳しく、ストレスが大きい。もう少し制度改善が必要。

・周囲に気遣ってくれる人がいると続けられるが、なかなか理解してもらえず辛かった。体力的に妊娠しながら働く事が大変だったし、考えているほど安易でなかった

・自分の勉強不足もありますが、各会社にもっと女性への対応のマニュアルを渡して欲しい。本当にひどい辞め方をさせられました

・立ち仕事が多く、お腹が大きくなるにつれて疲れやすくしんどかった

・負担がかからない仕事であれば、働いていた方が余計な心配をしなくてもいいのかなと思います。私は仕事先に『妊娠したので今後の仕事について辞めようと考えている』と意思を伝えたところ、露骨に嫌な顔をされ、『おめでとう』の一言も言ってもらえませんでした。経営者も妊娠した女性に対して、もっと働きやすい環境をつくるなどしてもらいたいです

・子どもがいる上司でも妊娠のことは全然わかっていない。言いつらい事が沢山あり、正直辛い思いも多かった

・妊娠は病気ではないとはいえ、やはり初期は辛かった。あまりずうずうしく振舞いたくはないですが、職場でも色々なところでもっと妊婦さんに理解が深まる事を願います

c. 職場の理解・配慮・協力が得られない

・妊娠中仕事を続けられるかは、職場環境次第だと思う。

・理解が深まってきたとはいえ、現況でも周りの配慮が足りないように思う。

・上司自身が「子育ては女の仕事」という考え方なので続けにくい。

・法律上育児休暇等の制度があっても、快く制度を利用させてもらうには、まだまだ時間が必要であると思う。

・周りに理解を受けられない。

・職場（男性）の意識をもっと高めて欲しい。

・もっと育児休暇がとりやすい環境の職場が増えると良い。

・会社員などは出産があるなら辞めざるを得ない等、不当な扱いが見られる。

・まだまだ女性が働くということについての理解が、社会では認められていないように思えてならない。

・男性は、産休を取りづらい。

・妊娠したものの体調が良かったので働きたい旨を訴えたが受け入れてもらえなかった。

・産休、育休はもっと融通がきくようにしてもらえると助かる。手当があれば尚良い。

・妊婦は邪魔な雰囲気になるような職場が多いと思う。出来ない事が多いので当たり前だと言えそうなのかもしれませんが。

・職場の人数がギリギリなので、休みづらい。

・女性が妊娠すると、迷惑そうな人が多い。

・企業の大きさによって制度があっても利用できない。利用できない場合が多いのではないかな。

・制度や法律がいくら定めていても、現場の決裁者の意識改革がない限り、妊娠育児をしながら仕事を続けることは不可能。

・職業によっても妊娠に対しての考え方が異なってくると思う。働きながらだとやはり職場の協力は必要だと思うし、もう少し理解する事が必要。

・体調が悪くなった時に休める環境がもっと確立していれば良いと思う。

・妊婦健診が1回5千円は高いし、健診は有給休暇でなく、会社で休みを認めてもらいたい。

・制度上は産休育休を取れることになっていても、会社によってとりづらい所は、なかなか改善されない。

・まだまだ職場では女性の妊娠出産に対する理解がないと思う。子どもが欲しかったので、仕事を辞めました。

・まだ、職場内での理解が不足していると思います。

・会社によっては良く思われなくてもあるよう。何より主人（男性）は、子どもが生まれてもすぐに休めない（産院にかけつけられないなど）

人が多いので、日本の会社は男性陣も配慮して欲しい。

・働きながらというわけではないが、就職や採用については、結果が左右されると感じた。

・自分は妊娠して仕事を辞めたが、続けられる職場だったら仕事を続けたかった。

・すぐに復帰できないと、クビになる状況。人員が少ないため仕方がないかもしれないが、今後の事は保留にされている。生活がかかっているため早く復帰したいと考えている。

・勤務先の組合に産休の制度が無かったのでいったんやめざるをえなかった。

・派遣社員なので育児休暇がないのでどうしても辞めなくては行けないので。あつたら出産後も働きたかった。

・公務員など産休育休がちゃんとしているところは良いが一般企業ではとりにくいのが現状だと思う。

・営業職では続けることは不可能でした。

・育児休暇は1年位しかないので短いと思う。

・母親自身や子どもの体調不良の際、急な休暇早退などで周りの目があるとなかなかとりづらい。

・法律で決まっていることでもやはり、実際の職場では行ってもらえないことの方が多い。法律とかではなく、周囲の人、職場の人の理解が必要だと思います。

・職場の人も喜んでくれてはいるが、変わらない仕事もあるので、やはり、早めに辞めたくなった。

・休みが取りたいときにとりづらい

・男性が上司であることが多いため、体調についての理解が得にくい

・パートなどの場合、産後は復職できないのが当たり前と思うのが不満。

・労働状況を事業所の都合で変えられることがあるので困る。働き辛くなる。

・病院へ行ったりする時など、周囲の人たちに気をつかう。

・小企業で働いていると自分の変わりに仕事をしてくれる人がいないので、どうしても休暇を取れないので、働き続けることは無理だと感じています。

・もう少し復帰してからの職場環境を改善してほしい。(仕事がやりきれなければ、家に帰ってから赤ちゃんが寝てからやればよいのではなど簡単に言われてしまうこともありますが、やはり、一

定期間は仕事量の軽減など考えて協力してほしい。)

・職場の環境が改善されたとは行っても、年配の人ほど古くさい考えで困る。(妊娠は病気じゃないが普通の体とも違うと言うことを理解しようとしな。また配慮もない) そういう人が所属長とかなので、休みとかは取りづらい。今どき、「子育ては女がやるもんだ」ということを、はばかり言わずも言う人もいて、特に山梨では時代遅れを感じる。

・職種によっては無理な事もあると思います。私の場合は立ち仕事、肉体労働だったので、休暇をとるか、辞めるかしかないなと思いました。

・職場の人の理解が必要だと思う。女性でも年齢が若い人は実感がないように思う。

・社会的にまだまだ認識が低い。(席を譲ってもらえない、タバコをそばで吸われるなど)ので、意欲があっても、強い意志がないかぎり働きづらいと思う。

・もう少し働いている人の身になって考えてほしい。特に男性の人は説明しても分かってもらえないことが多い。

・仕事をしていると、気は遣ってくれるが、やはり、休憩や休みは取りづらい。

・会社は、妊娠中に妊婦が必要としている措置をもっと知るべき。

・政府がいくら色々な策を立てても、現状は社会では全く生きていない。職場の考えが古く、今回辞めざるを得なかった。もう少し強制的にでもいいから、実行されるようにしてほしい。

・女性は分かってくれる方が多いですが、男性(とくに中高年)は、まったく理解してくれない。

・出来れば働いていたかったが、今の日本じゃまだ妊婦にたいして厳しいように思う。安心して妊娠しても働けるような環境になってほしい。

・職場によって理解してくれる人の差があると思う。

・臨月まで働いていられるのは、自分の体調も重要だけど、周囲のサポートあってこそだと思う。自分のバイト先はすごくよくしてくれたけど、結構、雑な扱いを受ける働く妊婦さんの話を聞いたことがあるので、そういう面でどうにかならないのかと思った。

・会社内での職場が変わりにくく、辞める以外に方法がない

・妊娠は病気じゃないと思っている上司が多すぎる。確かに病気ではないが、体調に個人差はあるので、もっと理解して欲しい。

・つわり休暇や通院休暇もきちんと制度化されている職場でありたいが、実際は、気持ち的に取りづらく気がして、年休（有給）を消化した。もっと気楽にとれたらいいと思う。（上司が取得をすすめてくれたり。）

・体調不良で急に休みを取らなければならなくなったときなど、その日に行わないといけない仕事があると、周りにも申し訳なく思い、自分自身も気になって休んじやられない気持ちになる。

・勤務時間が長かったのが短くできたらもっと続けられたのと思った。

・派遣ではたらいっていたので、ほとんど会社が妊娠とわかると人が見つかり次第、辞めて大事をとってという話しになります。社員じゃないと働き続けるのは難しい世の中だと実感しました。

・周りから休憩時間の回数増加や仕事の転換など配慮してくれるとストレス緩和となるので、是非環境まわりなど考慮してくれるとありがたい。

・会社が有休の使用をあまり認めてくれないので困っている。

・長時間、超過密労働をしている職場では、なかなか妊娠による配慮・理解が得られにくい。法律で厳しく保護していくか、社会的に長時間労働をなくしていかないと、安心して妊娠出産には望めない。

・もっと会社側が妊婦に優しい措置をとって欲しい。妊婦に冷たい会社がまだ多い。

・周りの働いている妊婦さんの話を聞くと、妊娠は病気じゃないからという感じであり今までと変わらない対応だと聞きます。個人差によりますが、気分が悪く眠いと変化があるので、もっと出産に関する知識が若い時・押さない頃からあればいいのと思います。

・人員にゆとりがなければ、勤務時間の短縮・休暇をとることはなかなかできないのが現実だと思う。

・女性が少ない職場では、体調が悪くても（つわりなどで）言い出しにくい気がします。

・育児休暇を3年設けてもらいたかった。現在は一年なので、会社は辞めます。でもできるなら3年後くらいにまたはたらけたらと思っています。

・環境が整っているのは良い事ですが、ひとりひ

とりの理解が足りないと思う。特に上司（50代）は子育てをしたことがないので、『妊婦の体の状態』に疎いと思う。上司の自己啓発もあると思うが、妊娠出産子育ての理解を深める勉強家などを会社でやるべきだと思う。世の中に働きながら子育てする人が増えて嬉しい。

・特に初期の頃は体を無理しがちで休みもとりにくい感じです。

・色々な制度があってもその職場の状況によって、利用できない現実があると思います。

・その職場がどのような会社であるかによって（男性が多い会社、人数の少ない会社など）妊婦は受け入れられない事が多い気がする。周りの協力がなくて働く事ができないのは悲しい。当然と思われぬ。

・同じ会社・職場に同じ環境の人がいないので、理解してもらえない。

・理解のある職場が少ないので、難しいと思う。

・上司の裁量ひとつにかかっていると実感した。女性上司だったが全くと言っていい程『無知』だったので、もしつわりが重かったり、切迫流産の危険があれば間違いなく退職していただろうと思う。

・経験者が少なく、職場の理解がいま一つ。体調が悪く休むのも言いづらい環境。両立しやすい環境づくりを国が率先して会社に改善を求めてもらいたい。

・妊婦や母親が少ない職場や職種では、周囲に理解を求める事が困難に感じる。

・女性が多い職場だったが、それはそれではたつきづらく面もあった。必要以上に気を使われる、シビアな目で見られるなど。

・周りに気を使うことも多いが、勤務先の事情もわかるので言いにくいこともある。勤務先への補助があると、気が楽な部分がある。

・派遣で働いていましたが、産休・育休はとりづらく、仕事を辞めました。

・妊娠した時点で、事務職（もともと事務職に6年位就いていた）に就いていたら、会社を退職することなく産前産後休暇と育児休暇などをとり、そのままはたらきつづけていたのだけれど、転職し、また職種を変えたので、どうしても働き続けることは無理だと思った。

・健診のための休暇が有休を使う形ではなく、きちんと認められて休みが取れたらよいと思う。

- ・派遣の仕事でしたが、ほとんど強制的に仕事を終了することとなりました。その際に、今まで社会保険を適用していたものがそうでなくなったりなど、結構“損”と思った部分がありました。これも会社によってだとは思いますが、もう少し妊娠をしている“得”部分を考えていただきたいです。
- ・時差出勤や休憩時間をとることが法律上認められていても、上司や会社のひとにそのような知識がないので、申し出にくい。
- ・育児休暇が1年しか取れないが、3年とれるぐらいになって欲しい。
- ・産前産後の休業は、中小企業では実質的に取得できないのが現状。またその後再就職を希望していても、育児との両立は支援やサポートがないと難しい。
- ・思った以上になかなか職場、特に上司の理解・配慮が無い事がわかりました。
- ・妊娠中、フルタイムの正社員で働いていたが、会社では規定があったものの、実際周りの理解が薄かったので、申し出づらかった。妊娠したら退職するという会社の体制があったので、働きづらかった。私としては産休をとって働く意思はあった。
- ・職種（建築）的には働きながらというのは難しいように感じる。なぜなら、現場監督等の危険もあるから。それを避けるならはたらないほうがいいように思う。
- ・パート勤務だったので、産休などはないので、つわりで体調悪化のため辞めた。パートだと正社員より働きながら出産することは難しいと思う。
- ・周りの負担が増えることは必然なので、周囲の理解を得られるよう自分でもコミュニケーションをとっているが、周りに出産の経験を間近で見たことがない方が多いので、知る機会を増やせたらいいなと思う
- ・働き続けたかったが、相談できる相手がいなかった
- ・労働時間は、育児時間をもう少し多くして欲しい。
- ・つわりの時が凄く大変でした。
- ・働く場所によって、妊娠出産に理解があったりその差はあると思うので、もっと社会全体で、子どもを産んで育てやすい体制にしていかなければと思います。
- ・制度があっても、職場の方へ休暇などをとりづらいつらと感じました。
- ・周りに理解がないと休みがとりにくい。会社に制度があっても十分でない。
- ・まだ妊娠出産についての考えが企業側は甘いと思います
- ・小さい会社なので、自由だと思っていたが、反対に居づらくなってしまった。女性が働くのが当たり前だという時代になったのに、妊娠出産に対する考え方が甘いと思う
- ・職場が妊娠に対し全く理解が無く、非常に困りました。休みや退職を認めてもらえなかった
- ・まだまだ産休・育休が取りづらい
- ・働きながらの妊娠出産は大変難しいと思う。つわりなども個人差があるので、迷惑をかけているので措置を申し出にくい
- ・社内の方々に迷惑をかけることを考えると、なかなか色んな要望を言い出しにくい。
- ・会社の、ひいてはそこに職属する人間の、妊婦に対する扱いについて、まだまだ低い
- ・職場がもっと理解してくれるようになって欲しい。妊婦でも仕事を続けた方がよい。
- ・せつかくの制度も職場では一般化されているとは言いがたく、周りの理解が得られるか不安である
- ・制度があっても、利用しにくい会社は多いのではないのでしょうか。同僚であっても子どもがいない人には理解を得るのは難しい
- ・権利を主張できない雰囲気は、周囲の認識不足によるものだとわかりました。雇用者（経営者）はぜひとも妊娠出産についての権利等は知っていただきたいと思います
- ・派遣社員として働いているが、妊娠を知らせると自分の希望より早めの退職を勧められた
- ・人は優しくしてくれたけれど、仕事としては何も変わっていません。もっと大事にして欲しいです
- ・出産してから子どもが体調が急に悪くなったときに、早退したり休むのが難しいので、職場の協力体制がもっと必要だと思う
- ・産休・育休を取りにくい会社が沢山ある
- ・休憩時間、出勤時間、休暇を希望通りにできるようだったらもっと働ける
- ・まだまだ会社・職場全体が妊娠中仕事を続ける事に理解が行き届いていないように思う。

・無理をしてはいけないと思いつつも、回りに迷惑をかけてはいけないと思って、動いてしまった事が多かったように思います。もっとサポートしてもらえなきゃまりがあれば働きやすくなると思います

d. 職場の理解・配慮・協力が必要

- ・職場の人と日頃からよくコミュニケーションをとることが大切だと思う。
- ・今回第1子が幼稚園入園を控えているため退職したが、体調や家庭環境に理解のある職場があると良いと思う。
- ・妊娠して調子が悪い時などに気兼ねなく休めるよう、職場の予備定員数も多く設定して欲しい(義務化)。
- ・異動の可能性が常にある職場なので、2人目が心配。
- ・周囲の協力理解が必須。
- ・働きやすい職場環境が必要である。
- ・職場復帰してから残業時間をはいりよしてもらえるか心配。
- ・会社側の姿勢が大いに関係してくるものだと実感した。
- ・働きながらの場合は、職場や行政の環境が整っていればいるほどいい。
- ・出来る限り働きたいが、職場の理解と支えが必要不可欠だと思う。
- ・悪阻がひどかったので、『制度の整った職場』『理解のある上司』でなかったら逆にもっと長期で休暇が必要だったと思う。勤務形態の選択が必要であると痛感した。
- ・現在は、親族の家業伝いなので自由がきく。それ以前に努めていた先も公務員だったので、手厚かった。でも、それ以外となると厳しいのではないだろうか。
- ・職場の理解を得ることが出来るか出来ないかによって仕事を続けていけるのかどうか、左右されると思う。
- ・会社もそうだが、上司などの理解がかなり大きいと思う。
- ・自分は恵まれた環境だが、職場の理解協力がないと心身ともに辛いと思う。
- ・子どもは風邪を引いたり予防接種などで色々と休まなければならないことがたくさんある。企業によっては休むのを嫌がり、解雇などするところ

もあるんで、そういうことをわかって受け入れてもらえるような企業が増えてもらいたい。

- ・職場の環境が一番大切だと思う。
- ・妊婦として接してくれることも大切だが、あまり特別扱いされても良くない。
- ・周囲の協力があればしごとは続けられる。大切なのは、妊婦も協力くださる周囲の人々に感謝の気持ちを忘れない事だと思う。
- ・職場で急に辞める事になり、あまりいい顔をされなかった。子育てしながら働くのは、理解してくれる職場をみつけないと無理。
- ・会社側の理解協力が必要である。
- ・夫婦で助け合いながら生活していくために状況によっては必要だと思います。でも、日本の社会がどれだけ理解してくれるのか不安です。
- ・私の場合、私の両親が経営する会社に務めているため、周りからの協力を得られたと思います。なのでとても協力してもらえる環境と言うのが大切だと感じました。
- ・職場復帰後、仕事と子育てが両立できるかが非常に不安。子育てしやすい環境(職場社会)にして頂きたい
- ・今務めている会社では、ほとんど育児休暇等の制度が整っていないので不安ではあるが、まったく対応してもらえないわけではないので、会社にどんどん意見を出していくつもりです。その為の勉強が限られた時間の中では大変だなあと感じています。
- ・職場の配慮がとても大切。
- ・職場の周囲の理解と協力が必要だと思います。
- ・体調が悪く休みを取ってもつとめやすい環境を！！
- ・少子化なので、子どもを産むことにもう少し理解を示してほしい。
- ・仕事の内容を考慮してくれたり、体調によって休憩しやすい環境を作してほしい。
- ・周りの理解が必要。私の周りは恵まれていると思う。(2回目の産休育休になります。)
- ・職場の周りの人たちにも理解を求め、軽易業務に転換してもらったほうが良いと思います。
- ・妊娠中働くことは想像以上に大変なことだと感じた。それをさぼ一とする職場環境が非常にたいせつで、理解なしでは続けられないと思う。
- ・職場環境(制度の充実、上司・同僚の理解)の充実が必要

- ・上司や周りの理解と思いやりが必要だと思います。
- ・理解ある会社ならばずっと働くことが可能だと思う。
- ・職場での理解や配慮がとても大切だと思いました。
- ・復職を考えたときの会社のフォロー体制に不安がある。
- ・難しいことではあるが、職場・周囲の人たちの協力を得ながら働く事が出来ればと思う。
- ・仕事が立ち仕事だったため、みんなの協力で重いものは持たなかったり、勤務時間を短くしてもらったが、お腹が大きくなってくると、みんなに迷惑がかかる気がするので、働きながらは無理でした。
- ・職種により、出産間近まで働けたりそうでなかったりするの仕方ないと思う反面、もう少し理解があればと思う。
- ・体調の変化に応じて措置を受け入れてもらえる体勢や周りの職場の人の理解があると望ましいです。
- ・職場の理解が必要。特に、子育ての経験者が多いと心強いと思います。職場が保育園なので、感染に対する予防・配慮があると、安心できると感じました。
- ・もう少し妊娠に対して、待遇が良いと仕事を続けることができると思います。
- ・女性が多い職場は、妊娠出産について協力的だが、そういう会社だけではないので、もっと理解して欲しい。
- ・会社の理解・協力が不可欠だと思う。
- ・バックアップが無ければ難しいと思う。
- ・会社の理解があるといいなと思う。
- ・体調が悪い時は、気を使わずに休める職場環境が大事だと思います
- ・周囲の人たちの理解・協力は絶対必要だと思います
- ・職場の理解が必要だと思います
- ・あまり無理をせず、回りの人たちに助けをもらいながら、働く事が良いと思います
- ・両立することは大変。社会・会社・家族・地域の協力がないと、自分のやりたい仕事、充実した仕事をするのは、難しいと思う
- ・周りの理解がないと働きながら妊娠することは大変ということを感じた

- ・勤務時間のフレックス制や、勤務日程の調整も特別にしているのではなく、当たり前であって欲しいです
- ・自分の意思をきちんと会社に伝えておく事
- ・家族など身近な人の協力も必要だが、行政や会社ももっと協力してくれないと働くことは難しい。
- ・産休明けフルタイムで働くには、子どものことがとても心配で、周囲が助けられる状況でなければ実際にはやりにくいと思う
- ・職場の理解が得られないと難しい気がする
- ・働きながら妊娠出産することは、職場の理解が無ければ難しいと思います。妊娠は病気ではないので、独身の女性や男性には妊娠しながら働く事の大変さがなかなか理解できないのではと思うことがよくありました
- ・産後約1年で仕事に復帰するのはやはり大変な事だと思う。もう少し産休が長くなければ駄目ではないでしょうか。
- ・サポート体制がある場合は、続けられると思う
- ・何よりも会社の理解・サポート体制・職場環境が第一だと思います
- ・雇用者へのアナウンスがもっと必要だと思います
- ・個人の体調等に合わせて休みを取得できるような職場が増えるといいと思うが、責任という事もあるので、難しいかもしれない。育児を含めて労働時間の短縮等、柔軟な制度があり運用されるといいと思う

e. 家族の理解・配慮・協力が必要

- ・出産後、復帰するには家族（夫以外）の協力が無いと難しいと思う。
- ・家族や同僚の協力や理解が必要だと思う。
- ・会社内の制度も必要だが、家族の理解も必要だと思う。姑等義理の父母兄弟姉妹の押し付けや意見の違いがあると働きにくい感がある。
- ・家族の助け協力が必要だと思いました。また絆が強くなった気がします
- ・家族からも理解がないと家事と仕事の両立が難しい
- ・私自身は3歳頃までは育児に専念したいし、子どもにとっても大事な事だと思っています。働きながら日常生活を工夫するなど、家族の協力が大切だと思います
- ・家族の理解と協力が無いと、辛い

・夫の協力が無いと無理

f. 地域の理解・配慮・協力が必要

- ・通勤電車で優先席が空いていないと辛かったです。周囲の人たちの協力がなによりもありがたいと感じています。
- ・自治体や周辺の人々の協力が必要だと思います

g. 通勤電車がつらい

- ・職場では妊娠していることを公表しているので、気遣ってくれることもしばしばですが、通勤はやはり不安な事がいっぱいでありました。
- ・通勤電車がつらい。(お腹が出ていないので気づいてもらえない。)忙しいので休めない。庶務等でコピー用紙など取ってきたり、案外思いものを持つことが多い。
- ・会社は良くても通勤の電車では妊婦に親切ではない。
- ・通勤等が辛かった。
- ・通勤電車も大変だった。満員電車はこわい。
- ・通勤途中を注意しました。
- ・都市部の通勤ラッシュは時差出勤をしても危険な事が多いと感じました。
- ・通勤電車が一番辛かったので、どの時期の妊婦さんにも優遇されるような仕組みをぜひつくっていただきたいです。
- ・通勤時、優先席の前に立っていても一度も席を譲っていただけなかった。妊婦が気兼ねなく座れる座席が増えることと、優先席についての啓蒙をお願いしたい。
- ・通勤も通常のラッシュ時だったが、せめて帰宅時の優先席に座らせてもらいたいと思った
- ・電車通勤だったので、座っていけるような努力をしたり、妊婦らしい服装で出かけるよう心がけたり、突き飛ばされることのないように周囲に神経を使いました。大変出来たが、子どもを守るのは私だという自覚も芽生えたと思います。
- ・日本の現状があまりにもひどすぎます。通勤中で席をゆずっていただけただけなのは、たった1回でした
- ・仕事は周りの人々の協力もあってなんとかやっていますが、通勤が大変です。とても働きながら妊娠は辛いです
- ・通勤の時、ラッシュの時は妊婦でもゆずを譲ってもらえないので辛かった

・妊娠中の通勤は結構大変なので、もっと何らかの制度があってもいいのでは？(公共機関の妊婦優先を徹底する。タクシー制度など)

・電車での移動が辛かった

B. 制度に対する意見

a. 休暇の充実

a1 育児休暇の充実

- ・子どもの体調がすぐれない時に相対する場合の休暇を、有給休暇とは罰に設けて欲しい。
- ・産後職場に復帰してから、育児のための休暇を取りやすくなると良いと思う。
- ・男性の育児休暇はとりづらく、まだ認知度が低いと感じた。
- ・育児休暇などの期間をもっと長く設定して欲しいなと思います。
- ・派遣社員で働いていたので、育児休暇がないため、仕事を辞める事にした。育児休暇があると良いと思った

a2 産前・産後休暇の充実

- ・ぜひ産前休暇を8週にして欲しい。
- ・産前6週の休暇がありますが、妊娠8~9ヶ月になると腹部の張りが頻繁にあり苦しくなる。産前8週、産後8週がベストだと思う。
- ・希望する人は全員が育児休暇を取れるようにして欲しい(パートでも勤務年数に関係なく)。
- ・経過が順調だったので最後まで勤務できたが、妊娠8ヶ月から産前休暇をとれる制度だとありがたい(産前42日を、もう少し長くとれるようにして欲しい)。
- ・一般的な産休期間をもっと増やすべき。
- ・産前の休暇をもう少し前からとれると良いと思う。
- ・産前産後の休暇は短すぎるように感じます。産後2~3ヶ月づつは頂きたい。
- ・もう少し早めの産前休暇にいられてほしいです。
- ・産前休暇が少ない。
- ・産前休暇が短いと思う。
- ・産前休暇は予定日6週間前からとなっていますが、人によってはかなりきついと思います。
- ・予定日8週目から産休に入りましたが、自分で思っていたより立ち仕事の性もあったかと思いますが、体力的にも辛く体調も良くない時期があり大変でした。職場の環境は、周りに理解があった

ので働きやすかったです。

- ・産前6週間前からとなっているが、もっと期間があっても良いと思う。
- ・産休の休暇が短い
- ・私の勤務先は産前8週の休暇が取れますが、8ヶ月に入るとかなり体調が変わり、胎動も加わり辛かった。
- ・現在の産休などに関する制度はすべて正社員を基準とした制度だと思います。派遣社員やパートにも実際に適応できる具体的な制度ができることを期待します。
- ・産休の制度は、現在、予定日前後合わせて16週であるがもう少し前から休暇がとれると有り難いです。また、つわりの時も休暇がとれるといいなあとと思います。(現在は多少辛くても休めない。医師の診断書ができれば休めるが)
- ・産前休暇がもう少し早くから取れるといいと思う

a3 妊娠初期(つわりの時期)の休暇の要望

- ・妊娠初期の産休制度が認められると良いと思う。
- ・安定期に入るまでが辛かったので、初期に休暇がとれるといい。
- ・つわりのひどい時期だけ休暇が欲しい。
- ・つわり休暇がほしい。妊娠しても仕事が続けたかったので、もっと法的拘束力を実行してほしい。
- ・つわりの時期に休める制度があったらいいと思う。有給でやすむのは、日数の問題で難しいのでは？
- ・第1子のときも、今回も、つわりの時期に仕事をするのが辛かった。つわりが終わると仕事していないと暇すぎて太ってしまうので「つわり休暇」があるといいなあとと思います。
- ・つわり期は見た目もわからないから、通勤や就業がとても辛い。つわり休暇をつくるべき。
- ・つわり中に一定期間休業できる制度などがあればよかったです。医師からの診断書がないと休業不可とのことでした。
- ・一番からだの辛い妊娠2~3ヶ月に仕事を休めたことがきつかった。でも、職場のみんなが気を使ってくれたので、すごく働きやすい環境だった。
- ・妊娠初期の不安定でしかも体調がすぐれない事が多い時期に産休がとれないのは、大変だと思う。安定期になる前がトラブルは多い

- ・つわりのある時期だけ休めて、安定したらまた仕事を続ける事ができたらいいと思います
- ・つわりの時期こそ、休暇が必要だと思った。
- ・お腹が目立つ前の『つわり時期』が一番辛かったです。でも、席を譲ってもらえるわけでも職場の人に気を使ってもらえるわけでもなく、毎日の通勤が苦痛でした。堂々と休める制度があれば・・・
- ・妊娠初期が体調が一番不安定なので、その時期の休暇を取りやすいような職場環境があった方がよいと思う。
- ・最もつらい(と思われる)つわりの時期に休業しやすい環境が整うと良いと思います。

b. 保育園・育児環境等の充実

- ・パートだと、子どもを預かってくれる施設がないのでは？
- ・公立の保育園幼稚園の状況を知りたい。
- ・保育園に入れるか心配(定員オーバーなど)
- ・復帰後の子育て(保育園など)について、とても不安を感じている(職場の理解はあるのか、保育園に入れるのかなど)。
- ・保育園の預かり時間がもう少し長かったらと思う。
- ・新生児が保育園に入園しづらいことや、核家族で子どもが病気になったらみてももらえないことなど、核家族や母が働きやすい環境が作られていない。
- ・安い保育料時間をもっと拡大して、みてもらいたい。
- ・出産後、仕事に復帰する予定ですが、保育園はどれくらいからOKか。
- ・保育園の下見はいつから行えばいいのか。
- ・産休明け保育がもっと充実したら良いと思う。
- ・職場復帰する上で、保育園にちゃんと入れるか心配。
- ・産後も働きたいと思っているが、安く安心して子どもを預けられる施設が少なく、復帰はなかなか難しいのではないかと考えている。
- ・母子家庭等優先の保育所と聞いているが、働く意欲がある者も同じように受け入れてくれる保育所があるといい。
- ・保育園が入園待ちもあると聞くので心配です。
- ・出産後も仕事をするため、保育園などの施設などについて知りたい。

- ・公立の保育園の育児時間がもっと遅くまで対応頂ければと思います。
- ・育児環境が整いにくい
- ・保育園等。
- ・出産後、子どもを預ける所（時間保育）の環境がわかりづらいので、もっとホームページ等で告知して欲しい。全額が高い。
- ・産後すぐに預けられるところがあるか不安。区の母子に関する体制はどのくらい整っているか知りたい。
- ・常勤で働いていてもギリギリの人数の職場では産休など無理。しかも非常勤ではなおさら。産後職につくには保育園が必要となると思われるが、産休ではなく退職した場合、入園は難しい。しかし保育園入園の見込みもなく就職を探すことは困難である。希望すれば（多少金銭面は仕方ないとして）、入園できるだけの保育園の充実を望む。
- ・望んだタイミングで保育園に預けられるか心配。
- ・時間が不規則な仕事なので、保育園の送り迎えなどの事で悩んでいる。
- ・保育園の時間帯がひどすぎる。働いている親を前提にしているのに、8:30~17:00では、フルタイムで働くのは無理。またも申込み等についても平日の昼間しか受け付けないと言ったルールにははなはだ疑問を感じる。2007年問題が世の中でとりだたされている中、やはり女性の労働力は見逃せないとし、合わせて、とどまる場所を知らない少子化問題を緩和させるためにも働ける環境づくりが重要だと思う。
- ・子どもを預ける施設が近くに少ないと思う。また、金額が高い。夫婦共働きだと子どもが病気のときなどのことを考えると、やはり妻は家にいたほうがよいような気がする。また病児院も高いと思う。
- ・家族と会社は受け入れ態勢がよく協力的だが、保育園の入園倍率が高いため、第2子妊娠にあたり、不安要素となっています。また小学校入学後の学童の時間が短いため、復職を検討中です。
- ・保育園の充実、保育内容などが気になる。
- ・働く女性にとって生まれてからの環境（保育園など）がないとかなり厳しい。
- ・女性は働きながら妊娠出産をしたいとおもっていたら、それができる社会でなければいけないと思う。保育園の問題や周りの協力がとても重要なので、その整備を充実して欲しい。

- ・保育制度の充実を望む。
- ・保育園をどうしたらいいか、良いところがあるか、わからない。
- ・保育施設は、好きなときに入れられるようにして欲しい。
- ・保育園などサポートしてくれる場所が多くないと仕事は無理です
- ・妊娠まではできても出産1年ですぐにフルタイムで働くと言うのは出来ないと思った。もちろん働いたほうが経済的にも安定するのでそうしかったが。保育園や幼稚園にも入りづらい江戸川区では無理かも思った
- ・早朝または夜勤でも働きやすい保育を充実させて欲しい
- ・妊娠中の体調も心配だけど、一番心配なのは育児をしながら仕事を続けられるかという出産後のこと。子どもの預け先とかが心配
- ・K区の保育園、特に認可の数を増やして欲しい。働くには、まちの環境が重要である
- ・子どもを保育園に正社員・非正社員であるかに関わらず預けることができるようになってほしい。現在認可の保育所は非常に入るのが難しいと聞くので、改善されると良いです
- ・出産してすぐに働きたいと思っているが、預ける場所など不安
- ・保育園の状況も悪い（入園できない場合もあると聞いている）働く母親にとっては良い状況とはいえない
- ・預け先が気軽に使えると嬉しい
- ・保育園事情が良くないので、早急に改善をお願いします
- ・保育制度が整っていなければ駄目ではないでしょうか。
- ・保育園の定員が厳しいというのも気になる。
- ・有名企業だと会社自ら保育所を設けているところがあるのがとても羨ましいです
- ・産後、子どもを預け仕事に出る際、上手く預けられるか心配
- ・実家が近くにないので、産んでから働くとなると預ける必要があるが、預けるにお金がかかるため、思うように動けない
- ・出産後の保育園等に不安です
- ・会社のみならず、社会的なサポート（託児所の増設、受け入れ時期など）などがもっと必要だと思います

- ・預ける場所をもっと増やして欲しい
- ・保育園に入れるか、保育園で大切にしてもらえるのか、そんな生活になるか、知りたい。
- ・仕事に復帰しようと思っているので、保育園の祭日・土日の預かりがあると嬉しいです

c. 行政サービス（教室・健診など）

- ・行政（社会）も、もっと協力すべきだと思う。
- ・マタニティスクールが平日しかない。病院も平日しかない。不便だった。
- ・母親学級両親学級（区病院主催の両方）ともに、働く女性にはとりづらいものだった。人数や曜日など考慮して欲しい。
- ・市で行うマタニティクラス、集団予防接種が平日にあるので、その都度、有給を使うのはたまにならいいけど、重なったりするととりにくいので、土日にもうけられるようなシステムを。
- ・前もって準備することが多いので、情報が入手しやすいともっと良いだろうなと思いました。平日以外も含めて、区市や民間の学級が増えるといいなと思います。
- ・土日に受けられる母親学級もやってほしい。
- ・母親学級等は、土日にも開催してもらわないと、月に3回も休んで来れない。そのため、参加時期がギリギリになってしまった。
- ・このような学級の機会が平日に限定されているのも、働いている事に対してマイナスの考えを持ってしまう。平日の都合をつけるのは非常に難しい
- ・行政の母親（両親）学級は平日主体で、やや参加しづらいと思う。

d. 制度の充実

- ・有休以外の方法でお金に負担なく休める制度がもっとあったらいいなと思いました
- ・男女関係なく、妊娠出産に取り組みやすい環境があると、核家族でも子沢山を目指せると思う。
- ・選択できる制度が当たり前になるべき。
- ・妊娠出産よりも育児の制度をもっと充実させるべき。
- ・やはりまだ日本の制度は古くて、妊娠＝退職になる。もっと沢山便利な制度、環境が必要だと思う。いち早く、そういうシステムをつくってほしい。
- ・政府の少子化対策は机上の理論でしかない。

・奈良県は出産率が低いとありますが、私が働いていたような会社が多くあるのと、区市の補助も、もっと色々と考えて欲しいと思う。

・復帰の時期を『子どもが就学するまで』の制度があるといいと思う。

- ・もっと女性が働きやすい職場をつくるために、より強い法律や制度を制定してほしい。
- ・働くのが当然の時代になってゆくのか。もしそうなら、休みやすい確立した法などで、ハンデや引け目のない制度になってゆくことを望みたい。
- ・もっと妊娠中出産後の社会に出れるシステムの確立。

・次世代育成支援推進法の充実を望む。

・母子健康手帳配布時にカードを渡して欲しい。その時点で認識できる。

・契約1年の講師だったので、5年間同じ職場の雇用保健に入っていたのに、出産手当金が支払われなかったり、産休が無かったりするのは辛いなあと思いました。その他勤務している時は特に問題なく過ごせました。

・もう少し仕事に復帰しやすい制度がほしい。

・年々、母子に対する保護制度が認められてきて良くなっていると思う。

・社会的体制をもっと優しい環境にしてほしいと思う。

・自由に選択できる環境が必要だと思います。

・社会全体の理解を得て、たくさんの女性が働ける環境を作ってもらいたい。

・妊娠することはうれしいことで大変なことだけど、働いているということ、周囲に気がつかったり、出産後のことに不安があったりで大変だと思う。もっと、子どもがいて働く人に対して、サポートがあればいいと思います。

・自宅勤務の自営なので、自分の責任と管理で予定を動かしたりできるのであまり不都合は感じません。周囲の働く母親を見ていると、出産子育てのために仕事を制約されたり、逆に仕事のために出産子育てに踏み込めなかったりしている人が多いです。少子化を問題にするのであれば、現実的に子育てと仕事を両立できる社会にするべきだと思います。

・もっと、子どもを育てやすい環境になって欲しいです。児童手当ももっと充実して、情勢が子育てしやすく、社会復帰しやすい社会になってほしい。子どもを産まない女性が多いのは、そういっ